

清流 ニ ュ ー ズ

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話 (042) 646-0287 (代)
FAX (042) 644-1164
http://seiryuji.jp.org/

令和元年度総祈願
本年度教化誓願達成
創建七十周年記念事業御有志奉納成就之御願
教区再編成御奉公成就
教務員増加・役中後継者養成

当会式が、大本山・宥清寺に於て奉修されます。
同時に、先日申し込みをしていた宗門総回向も併修されることになって
います。

七月二日(火) 立川教区
三日(水) 国立教区
四日(木) 京王教区
五日(金) 国分寺教区
六日(土) 小平教区

七月の御総講日
一日 十時 御修行日
七日 十時 バースデー総講
日序上人報恩祈念
十三日 十時 高祖御命日
廿五日 九時半 門祖御命日
於 清流寺
十二日 高祖御速夜
廿四日 門祖御速夜
於 門祖御命日
三十日 歡尊御命日
於 羽村別院

7月28日
10時30分

佛立開導日扇聖人御正當会式
奉修御導師
横浜・照隆寺
住職 前島日力導師

夏のお会式である御正當会(開導会)はこの開導聖人へ
の大恩報謝の誠を捧げる大法
要であります。

この日は、講有、高須日良上人を総導師としてご出座のお教務方によっていていねいにご回向が奉修されることになっております。

本年度
夏期参詣交流
久遠寺さんと
令和元年の夏期参詣の交流は、蒲田・久遠寺さんとの組み合わせで行います。
参詣日は決定しだいご披露いたします。

特別行事
廿八日 十時三十分 開式
佛立開導日扇聖人御正當会式
晴天祈願(夏期参詣併修)
十四日 廿七日
午前六時
午前九時半
会議
一日 御総講後 役中会議
廿一日 午後二時 参事会
廿五日 御総講後 ブロック
長会議

本年の開導会は、横浜・照隆寺ご住職・前島日力導師を奉修導師にお迎えして奉修させていただきます。

幕末の宗教改革者として、当時墮落しきつた仏教界に一石を投じ、在家仏教の礎を築かれ、殊に、久遠本仏の悟りの全体である、法華経本門八品のお題目を、蓮隆両祖の、み教えにもとづき、正しく継承され、ご艱難、ご苦勞遊ばされながら、最高、最尊の教えを私共にお伝え下さったのです。

晴天祈願は、夏期参詣と併行して、七月十四日(日)から廿七日まで行なわれますから一日でも多くお参詣に気張らせて頂きましょう

七月 朝参詣強調週間
二日(六日)
立川、国立(第四ブロック)
京王(第五ブロック)
国分寺、小平(第六ブロック)担当

七月の朝参詣強調週間は、第四ブロックの立川、国立と、第五ブロックの京王、第六ブロックの国分寺、小平が担当となります。

佛立開導日扇聖人御正當会式
晴天祈願(夏期参詣併修)
十四日 廿七日
午前六時
午前九時半
会議
一日 御総講後 役中会議
廿一日 午後二時 参事会
廿五日 御総講後 ブロック
長会議

前島ご住職は、平成二年に得度され、昨年の十月に芽出度く、権僧正にご昇晋されました。宗門においては、佛立研究所・教学研究部内の主任研究員として活躍中です。さて、佛立開導日扇聖人は

く、であると云っています。これは仏の説かれた妙法が凡夫をして能く仏の境界に到達せしむることを形容せられたのであります。

この毒に譬へられたのは、人間の本性である煩惱、業、苦を三徳と申します。人間とは三毒強盛の凡夫であると申します。つまり凡夫は心が煩惱によって充たされているので、この煩惱が悪業を生む。悪業によって種々の苦が生じます。苦によって心が荒んで更に多くの煩惱が起りこれ

がまた更に多くの悪業を生むという具合で三者がますます長じてゆくので「三毒二輪廻スル」というのであります。その凡夫が法華経を信じお題目を受持口唱すれば、三徳が三徳と転ずるのである」と示されます。三徳とは法身徳。般若徳。解脱徳の三つです。仏の如き清浄なる性質が法身。万有の真相を見究める力が心に具わる事が般若。一切の苦をのがれて心が永く平和安穩になるのが、解脱という事で、

「法華経ヲ信ジ、南無経ト唱フルモノハ、煩惱ノ諸結(シヨケツ)モ染著(センジャク)スルコト能ハズ猶虚空玷汚(テンオ)スベカラザルガ如シ」と説かれてあります。開導聖人は、妙の名を唱へかきながら常であればうき世のうきはわすれはたり。と御教歌下されてあります。御法を持ち、日々、夜々、口唱信行に励むうちに、三徳が三徳に転ずる故に、あらゆる人間苦より解放されるという事はまことに有難い事であり



同帰亭要語録

妙の一字

義1712

竜樹菩薩、妙法ノ妙ノ一字ヲ釋シテ、譬ハバ大藥師ノ能ク毒ヲ以テ藥ト為スガ如シ等云々。毒トイフハ何物ゾ、我等方煩惱、業、苦ノ三道也。藥トイフハ何物ゾ。法身般若解脱ナリ。能ク毒ヲ以テ藥ト為ストハ何物ゾ。三道ヲ変ジテ三徳ト為スノミ(始聞仏乘

竜樹菩薩は仏滅後七百年に南天竺に出て、大乘仏教を弘むるに非常に功勞のあつた人ですが、「智度論」を著わし、その中で、「妙」という字を解釈して、譬へば薬を調剤するのに、その調剤の専門家が毒を用いて薬とするが如

く、であると云っています。これは仏の説かれた妙法が凡夫をして能く仏の境界に到達せしむることを形容せられたのであります。

この毒に譬へられたのは、人間の本性である煩惱、業、苦を三徳と申します。人間とは三毒強盛の凡夫であると申します。つまり凡夫は心が煩惱によって充たされているので、この煩惱が悪業を生む。悪業によって種々の苦が生じます。苦によって心が荒んで更に多くの煩惱が起りこれ

がまた更に多くの悪業を生むという具合で三者がますます長じてゆくので「三毒二輪廻スル」というのであります。その凡夫が法華経を信じお題目を受持口唱すれば、三徳が三徳と転ずるのである」と示されます。三徳とは法身徳。般若徳。解脱徳の三つです。仏の如き清浄なる性質が法身。万有の真相を見究める力が心に具わる事が般若。一切の苦をのがれて心が永く平和安穩になるのが、解脱という事で、

「法華経ヲ信ジ、南無経ト唱フルモノハ、煩惱ノ諸結(シヨケツ)モ染著(センジャク)スルコト能ハズ猶虚空玷汚(テンオ)スベカラザルガ如シ」と説かれてあります。開導聖人は、妙の名を唱へかきながら常であればうき世のうきはわすれはたり。と御教歌下されてあります。御法を持ち、日々、夜々、口唱信行に励むうちに、三徳が三徳に転ずる故に、あらゆる人間苦より解放されるという事はまことに有難い事であり